



DELL EMC RecoverPoint for Virtual Machines

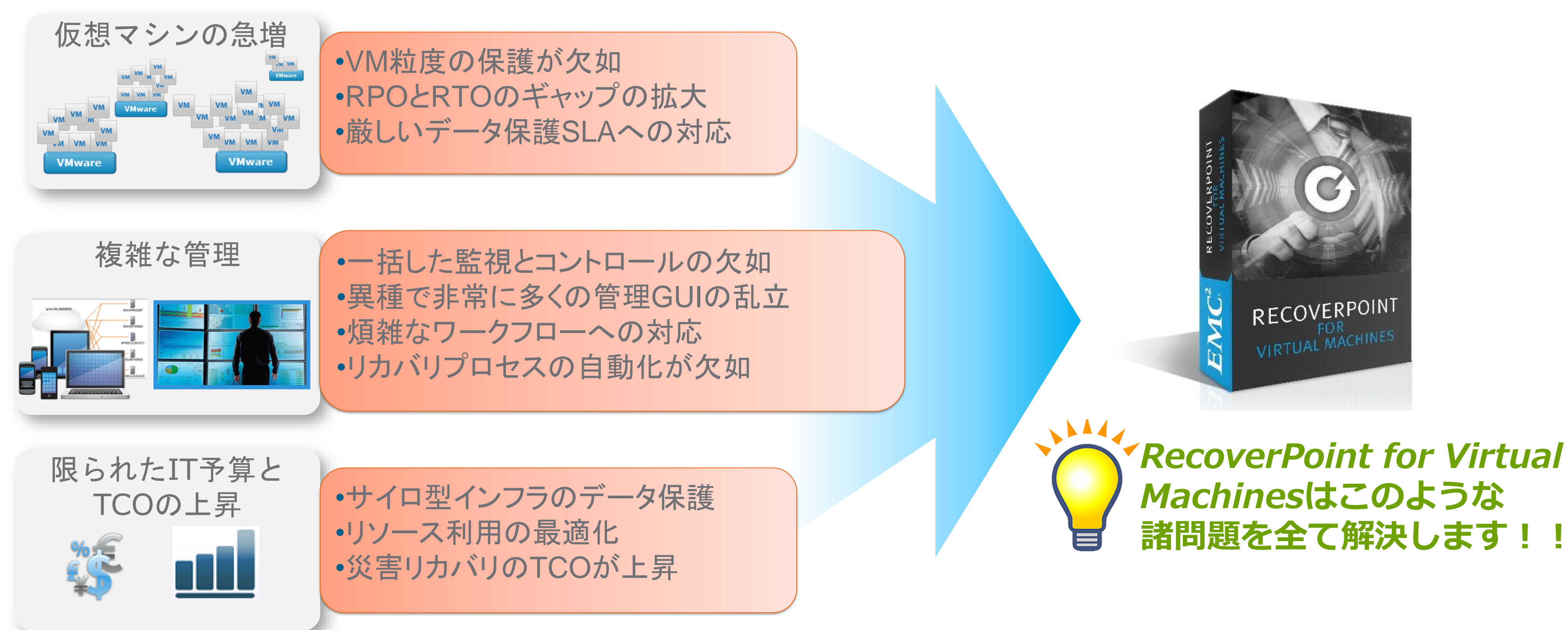
エンタープライズレベルのVMWare環境において、スナップショットとレプリケーション技術を併用し、システムの即時復旧を目的としたBCPソリューションです。

製品概要

RecoverPoint for Virtual Machines (RP4VMs)は、VMWare vSphereとの連携によりストレージに依存せず、保護仮想マシンからのWrite I/Oから更新データのみレプリケーションが可能です。また、更新データは事前定義したRPOに基づいて保護サイト(コピー)側のジャーナルボリュームと呼ばれる、保護期間を基準にサイジングより算出されたボリュームに対して、Point in Time(SnapShot)として保存されます。リカバリの際はジャーナルボリュームの保護期間内において、このPoint in Timeを復旧点として保護仮想マシンを起動します。この時使用するネットワーク環境は、事前定義済みネットワーク設定、DHCP、vSphereバブルネットワークから選択が可能です。

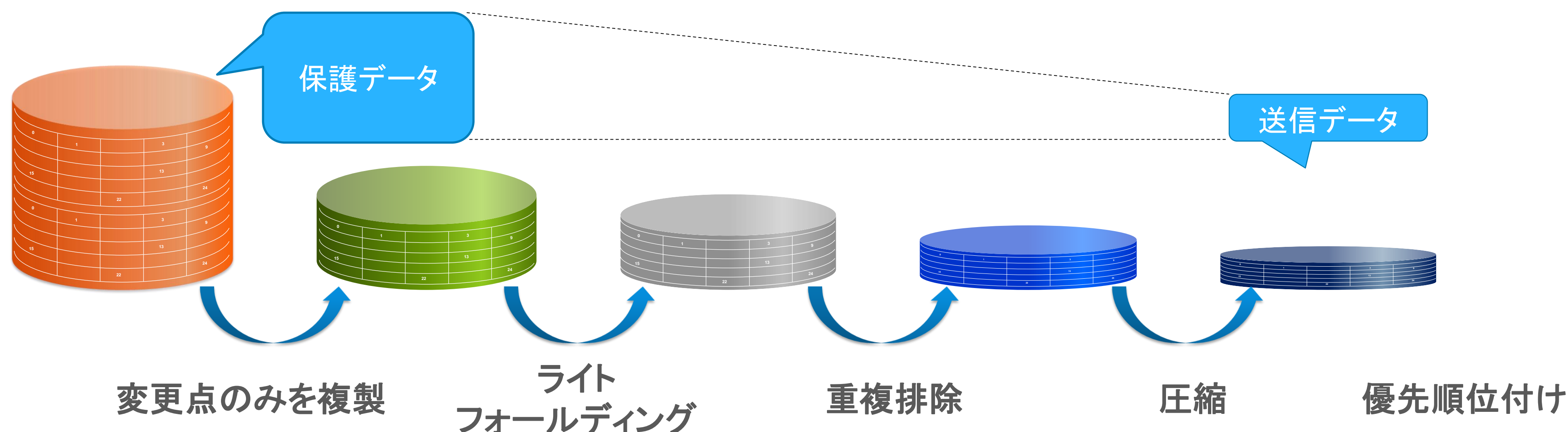
RP4VMsで仮想環境のデータ保護課題を解決

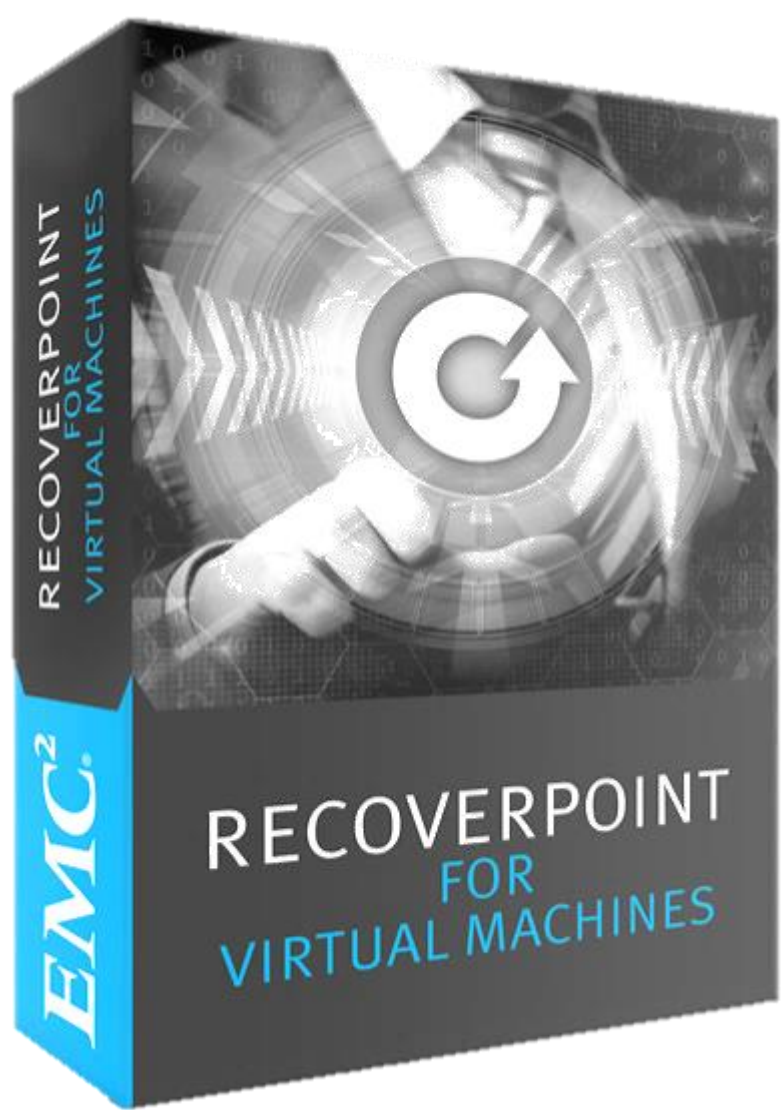
仮想環境管理者とITマネージャが直面する課題



RP4VMsによるTCO削減

帯域幅のコストを最大90%削減し、運用コストを節約





DELL EMC RecoverPoint for Virtual Machines

DELL EMC RecoverPoint for Virtual Machines:
シンプルで効率性に優れた実証済みのソリューション

メリット

DELL EMC RecoverPoint for Virtual Machines
によって組織が実現できること

- 信頼性の高い反復可能なプロセスによってOR/DRのデータ保護ワークフローを合理化
- ビジネス ニーズおよびデータ保護ニーズの変化に素早く対応
- テストと開発で別々に使用するレプリカを提供することで、アプリケーションの開発サイクルを短縮
- データセンターの移行を最小限の中断で実行
- バックアップ操作にオフサイトレプリケーションを利用することで本番サイトへのインパクトを回避
- データ保護に関する必須のSLA(Service Level Agreement)にVMWare管理者が対応可能
- DESA(DELL EMC Storage Analytics)を介してVMWare vRealize Operations Managerと統合することにより、仮想化インフラストラクチャを詳細に可視化

RecoverPoint for Virtual Machines (RP4VMs)は、アーキテクチャとしては、VMware vCenterプラグイン、vSphereハイパーバイザーに組み込まれたRecoverPoint書き込みスプリッター、すべて包括的にVMWare ESXiサーバ環境に統合された仮想アプライアンスから構成されます。

RP4VMsは、仮想マシンレベルの細分性で仮想マシンを保護し、VMWareがサポートするあらゆるタイプのストレージ接続によってアクセスされる仮想マシン(VMDK及びRDM)をレプリケートします。

RP4VMsには、プラグインを介してVMWare vCenterと完全に統合されたオーケストレーション機能と自動化機能が組み込まれています。VMWare管理者はこれらの機能を使用することで、ターゲット サイトのローカルまたはリモートから一つまたは複数の仮想マシンを保護するための可視性と制御性を得ることができます。

また、DRテスト用の検出、プロビジョニング、オーケストレーションの自動化、任意のポイント イン タイムへのフェイルオーバー及びフェイルバックを全てvCenter Web ClientのGUIから実行できます。

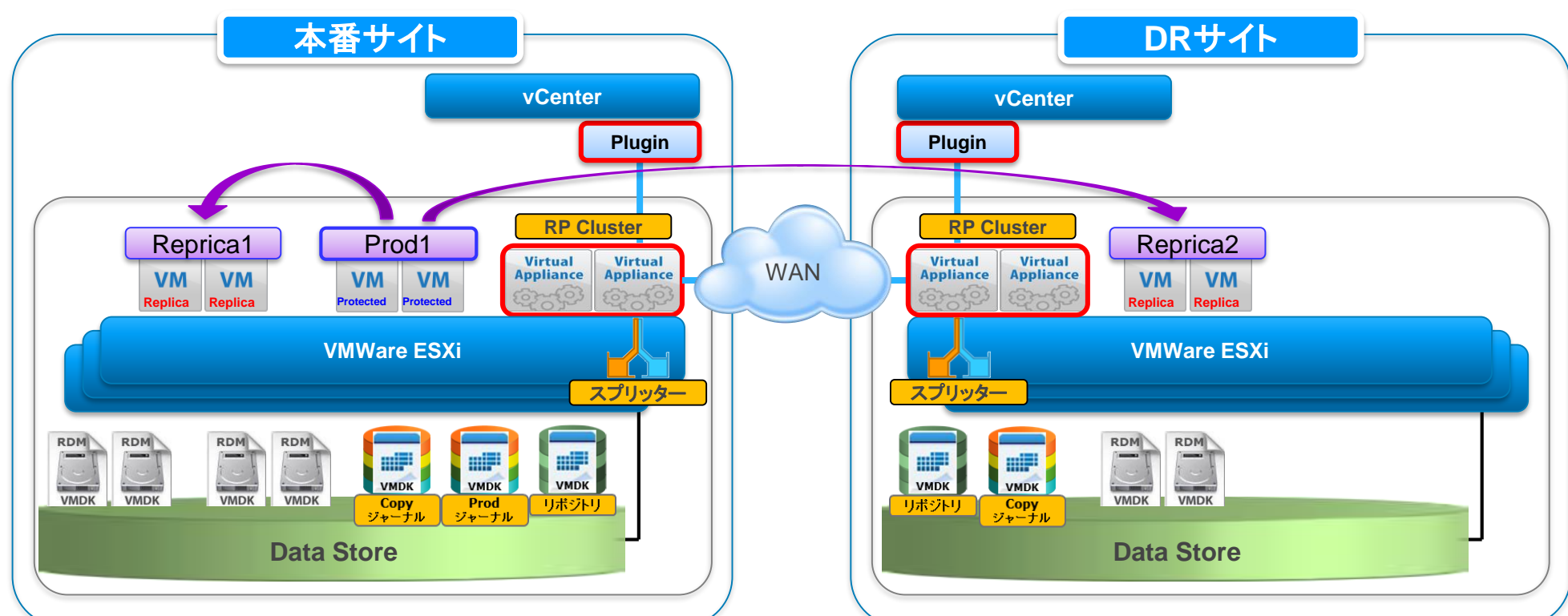
VMWare管理者は、CG及びCGのセットを使用することで、VMWare ESXiクラスター全体に存在する相互依存アプリケーション間の整合性を維持しながら、選択したポイント イン タイムへのリカバリを実行できます。

例えば、ビジネス分野の一例を示すと、販売注文システム、支払いトランザクション、在庫管理、サプライ チェーン管理など(これくらいは全て仮想マシンに展開される)、エンド ツー エンドのビジネストランザクション プロセスの運用を正しく復元するパワフルな機能を最大限に活用できます。

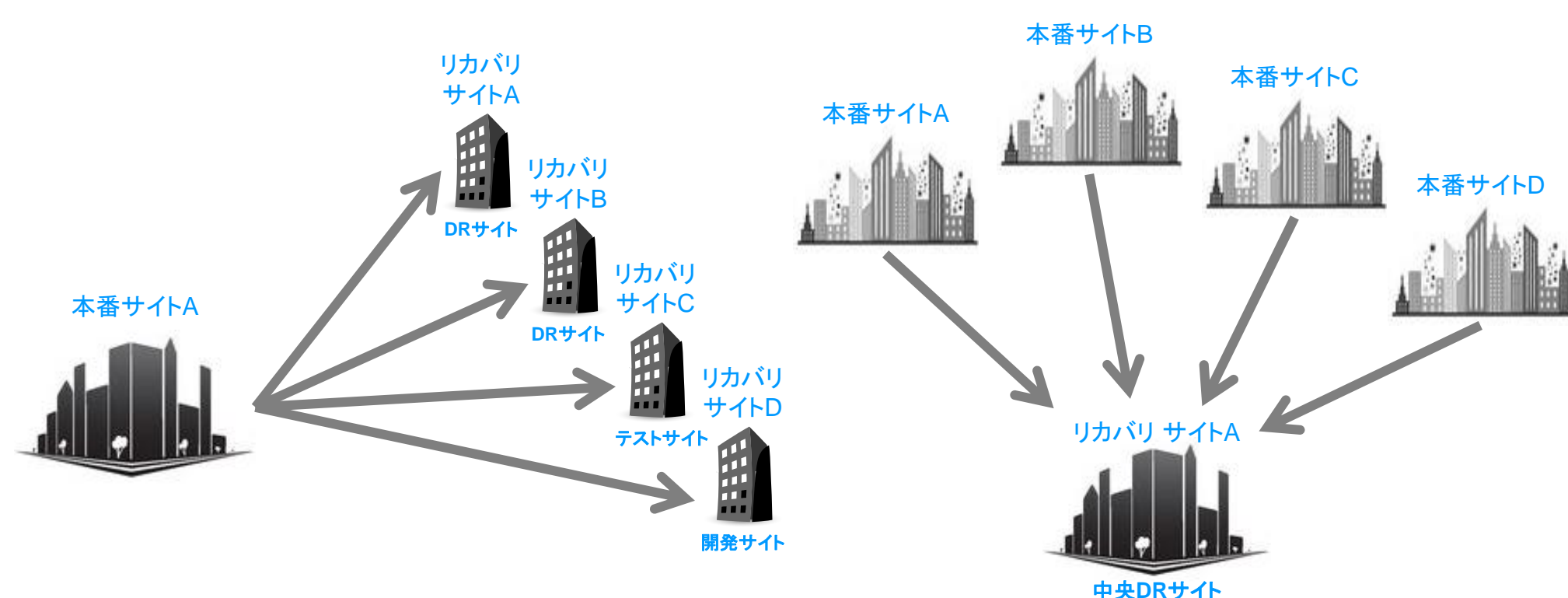
DELL EMC Storage Analyticsとの統合

DELL EMC RP4VMsをDESA(DELL EMC Storage Analytics)と統合することで、VMWare vRealize Operations Manager内でRP4VMsのインフラストラクチャを分析的に可視化できるため、迅速な展開が可能になります。また、ダッシュボードやヒート マップなどのビジュアル化ツールを実用的な容量/パフォーマンス分析に利用できるようになります。

ローカル／リモート保護



マルチサイト・レプリケーション



2017年2月版

EMCジャパン株式会社
東京都渋谷区代々木2-1-1
新宿メインズタワー
〒151-0053
URL: <http://www.emc.com/ja-jp/index.htm>

お問い合わせは
<http://www.emc.com/ja-jp/index.htm#globalnav=open>

●お問い合わせは